

令和4年度学校関係者評価

1 本年度の重点目標

1 学習指導（確かな学力の育成）
(1) 基礎・基本の定着と、授業の質の向上（生徒の思考力・判断力・表現力を高める授業やICTを活用した授業）による授業改善と生徒の学力向上を図る。
(2) 自学・自習の主体的な学習態度を養い、家庭学習習慣の確立と内容の充実を図る。
2 生徒指導（豊かな人間関係と社会的に自立する力の育成）
(1) 基本的な生活習慣の確立と、他を思いやる心、勤勉奉仕の精神を育む教育を推進し、共生社会に生きる生徒の資質を高める。
(2) 規範意識の醸成に努め、事故や盗難、いじめ等のない安全安心な学校づくりに努める。
(3) 挨拶や端正な制服の着用、交通ルール遵守等、地域社会から評価される態度と整容を身に付けさせる。
(4) 部活動、学校行事、生徒会活動等へ積極的に取り組ませる。
3 進路指導（自らの生き方を考え主体的に進路を選択する態度の育成）
(1) 面談等を通して自己理解を深めさせ、自己の生き方を主体的に探究する「志教育」を推進する。
(2) 生徒の自己実現のために、3年間を見通した系統的・組織的な進路指導の一層の推進に努めるとともに、全教員が最新の進路情報を取り入れる研修の機会を設ける。
(3) 国公立大学や難関私大等に現役合格できる学力と第一志望を最後まで諦めない強い意志を養う。
4 保健衛生・安全教育・防災教育（命を守る力と共に支え合う心の育成）
(1) 生徒の心身の健康保持と体力増進を図る。
(2) 交通安全の意識高揚（特に自転車通学マナー）を図り、事故の未然防止に努める。
(3) 防災教育を通して日常の安全点検や避難訓練の充実を図り、地域社会と連携して危機的状況にも対応できる学校を目指す。

2 自己評価結果に対する学校関係者評価

A 達成している B おおよそ達成している C あまり達成していない D 達成していない

評価分野	評価項目	自己評価		学校関係者評価	
		自己評価結果	改善の方策	自己評価の適切さ	改善策の適切さ
学習指導	1 基礎・基本の定着	B	みやぎ学力状況調査の結果を見ると、基礎的な知識の定着は概ね良好のようである。基礎・基本の更なる定着とともに、思考力を高める指導研究に取り組みたい。	B	B
	2 授業の質の向上	B	目標値には届かなかったが、生徒の60%以上が、授業を分かりやすいと回答している。校内研究で取り組んでいるICTを活用した授業改善を通して、更なる授業の質の向上を目指していく。	C	C
	2 家庭学習習慣の確立	B	みやぎ学力状況調査の結果から、家庭学習習慣について概ね目標を達成しているとは言える。一方、生徒の学習意欲が十分高まっているとは言えず、学習に対する動機付けの工夫を継続する必要がある。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	・家庭学習時間の確保のための方策を検討してほしい。（スマートフォン等の使い方を指導、動機付けの工夫、等。）・探究活動にぜひ力を入れ、生徒の意欲を高めてほしい。・思考力・判断力を身に付けさせるための工夫に努めてほしい。				
生徒指導	1 基本的な生活習慣の確立	B	「基本的な生活習慣の確立に関する指導」では、保護者の80.2%、生徒の83.6%が肯定的評価をしており、概ね達成できたもの考える。今後も基本的な生活習慣が身につくように努めたい。	B	B
	2 規範意識の醸成	B	「いじめの早期発見の取組」では、保護者の70.7%、生徒の82.1%が肯定的評価をしており、概ね達成できたもの考える。今後も毎月行う学校生活アンケートなどとおして継続的に指導していきたい。	B	B
	3 特別活動への積極的な取組	A	「部活動は活発に行われている」では、保護者の80.2%、生徒の87.4%が肯定的評価をしており、概ね達成できたもの考える。今後も生徒が主体となった学校行事や部活動等に取り組んでいきたい。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	・規律を守る（服装や遅刻等）という点での意識が低いような印象がある。社会に出て通用するような指導をお願いしたい。・地域に貢献する態度の育成を進めてほしい。・挨拶を励行してほしい。・いじめ対策について、学校の取組をもっと保護者に対してアナウンスする必要があるのではないか。				

進路指導	1 自己理解と志教育の推進	B	社会人講和や夢ナビライブ参加などを通して、早期の自己理解と進路目標の設定を目指して指導を実践した。進路指導4の「進路目標の明確化に向けた適切な指導」は、保護者86%、生徒74.3%が肯定的評価であった。	B	B
	2 系統的・組織的な進路指導の推進と研修の設定	B	各学年における進路だよりの発行や保護者進路説明会などを通して情報提供に努めた。進路指導1の「学校は必要な進路情報を提供している」は、保護者82.1%、生徒90.7%が肯定的評価であった。	B	B
	3 高い進路目標を達成できる柔軟な思考と強い意志の養成	B	模擬試験への生徒の取り組みは大変良好であった。また、各学年で模試分析会を行い、生徒の学力把握に努めた。進路指導3の「学力向上をはかり、講習や模試を十分に提供している」は、保護者84.8%、生徒92.3%が肯定的評価であった。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	・何のために学ぶのか等、キャリア教育を含め、面談等を活用して対面で伝えてほしい。・進路意識の高揚のために、オープンキャンパスや施設見学等リアルな経験を積ませてほしい。				
保健・安全・防災	1 健康保持と体力増進	B	学校評価において「学校は生徒の安全や健康管理に積極的に取り組んでいる」では、保護者の87%、生徒の92%が肯定的評価をしており、概ね達成できたもの考える。今後も健康の保持増進に努めていきたい。	B	A
	2 交通安全意識の高揚と事故発生の未然防止	B	「交通安全教育の取組」では、保護者の80.2%、生徒の87.9%が肯定的評価をしており、概ね達成できたもの考える。しかし、自転車事故が12月末で24件発生(23件)している。今後も路上指導や生徒指導だより等で継続的に指導していきたい。	B	B
	3 防災教育と避難訓練の充実	B	「防災訓練などを通して災害、非常時の避難方法や連絡方法を伝えられている」では、保護者88%、生徒90%が肯定的評価をしており、概ね達成できたものとする。今後も災害に対する意識を高めていきたい。	B	B
学校関係者評価委員会における意見	・保健衛生に係るポスターが校舎内に多く掲示されているのはとても良い。・自転車マナーがよくなる印象がある。・避難所運営訓練を盛り込んだ防災訓練を行ってはどうか。				

### 3 次年度の課題と改善方策

次年度の課題	改善方策
① 家庭学習習慣の定着	進路学習や探究活動を充実させることで生徒の学習意欲を喚起し、生徒自身が見通しを持って計画的に学習に取り組むことができるよう指導する。
③ 進路意識の高揚	1, 2年生を対象に社会人講話や大学出前講座を実施し、早い時期から生徒が進路について主体的に考える場面を創出する。
④ 地域と連携した協働的な学び	総合的な探究の時間で地域の大学や企業と連携した活動を実施したり、防災訓練で避難所運営訓練を実施したりすることで、生徒が積極的に地域と関わり学びを深められるよう工夫する。